

輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

北米西海岸を中心とする航路では、本船スケジュールに乱れが生じており、主要な乗継航路を含め、混雑が続いています。特に、2月の中国旧正月による減便で、3月中旬から下旬にかけて米国西岸に到着する本船が少なく、空コンテナの不足が発生したことで、船腹予約にも影響を与えました。4月以降は、減便時の遅れを取り戻すべく、米国向けに多くの貨物が出荷されたことで、一時的に入船が集中しました。その結果、本船スケジュールの度重なる変更により、大型連休後の日本国内においても入船が集中し、荷役作業の遅れが生じています。

また、4月には日本国内の主要港において港湾労働者によるストライキが発生しており、13日、20日、27日の各日に24時間の時限ストライキが実施され、東京港や横浜港などで貨物の積み降ろし作業が停止されました。労働組合は賃上げなどを求めています。交渉は難航しているため、5月11日にも同様のストライキが予定されています。5月18日以降は毎週日曜日の時限ストライキに加え、無期限時間外荷役拒否も通告されています。現時点ではストライキによる大きな貨物への影響は確認されていませんが、荷役作業が遅延することで予定通りに貨物を搬出出来ない可能性もあるため、動向には十分な注意が必要です。

北米航路ではトランプ大統領による関税措置や、各国からの報復関税の影響により貨物量の減少が続いており、今後、ブランクセーリング（寄港予定港の抜港）が増えることが予想されています。加えて、一部の船会社では関税問題とは別に、日本の港湾混雑を緩和する目的で複数週にわたり日本港の抜港を検討しています。こうした配船の減少が進んだ場合、コロナ禍と同様に船腹予約の確保が困難になり、1隻あたりに積載されるコンテナ数が増加し、一度に大量の貨物が入港することで、日本市場の需給と相場が不安定になる可能性もあります。

ビートパルプ

2024—2025 年産の製糖作業およびビートパルプの生産は5月中には終了する見込みです。25 年産の成約は順調に進んでおり、欧州向けは昨年を上回る見込みとなっ

ています。

また、4月にはカリフォルニア州南部インペリアルバレーにある製糖工場が閉鎖されることが発表されました。輸出向けはごくわずかであったものの、近隣州を含めた、米国の酪農地域での工場閉鎖ということもあり、国内向け需要に影響を及ぼす可能性もあるため、注視が必要です。

アルファルファ

【ワシントン州】

主産地であるコロンビアベースンでは、冷涼な気候が続いていましたが生育は順調で、南部の早い圃場で25年産1番刈の収穫作業が開始されています。24年産の価格は生産農家にとって魅力的ではなく、他作物に転作した圃場もあったため、25年産の作付面積は5～10%減少する見通しです。

米国内酪農家は関税の影響で輸出市場が低迷し、相場が下落することを期待しているため、買付を控えており、動向を注視しています。今後の作柄次第で動きが出てくると予想されていますが、先行き不透明な状況が続いています。

また、中国向けの船積が完全に停止しているため、行先が変更となった貨物がベトナムや韓国、日本の一部顧客に向けて輸入されており、市場の動きには引き続き注視が必要です。



25年産アルファルファ 1 番刈圃場の様子
(4月下旬撮影)

【カリフォルニア州】

カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫作業が行われています。昨年のDIP（休耕地政策）の影響で、枯れきった茎が混入した圃場もありましたが、高成分な品質が収穫されており、主に中東や米国内酪農

家へ出荷される見込みです。今後、産地での気温も上昇していくことから、成分値が低く、色褪せたサマーハイが収穫される見通しです。

灌漑局の発表によると、4月15日時点でのアルファルファの作付面積は146,054 エーカーとなっており、前年同期の145,273 エーカーからやや増加しています。

米国産チモシー

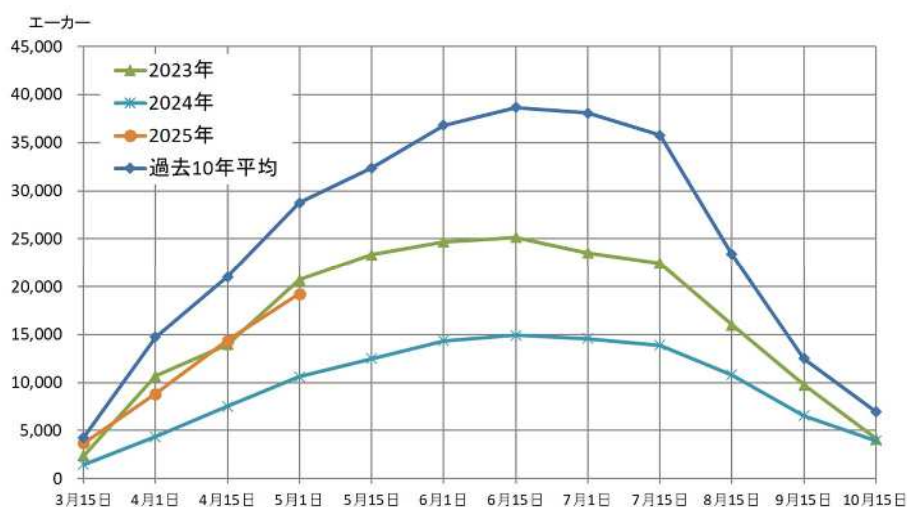
主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは、昨年同様に、冷涼な気候が続いたものの、順調に生育しており、25年産1番刈の収穫はコロンビアベースン南部で5月下旬より開始される見込みです。

需要については輸出、米国内向けともに堅調に推移しており、荷繰りに苦慮する輸出業者も散見されています。そのため、繰り越し在庫が無い状態で25年産を迎える見通しです。他作物の相場が低迷していることもあり、作付面積は10～15%増加すると予想されています。

スーダングラス

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、5月後半から25年産1番刈の収穫作業が開始される見込みです。灌漑局によると、5月1日時点でのスーダングラスの作付面積は19,246 エーカーで、前年同期の10,625 エーカーから増加していますが、春の温暖な気候により生育が早まり、作付けも早く開始されたことが要因であり、5月が作付面積の最盛期と予想されています。

一部の輸出業者が保持していた2022年産や2023年産の旧穀在庫を解消しつつあるため、日本の需要次第では産地在庫が逼迫する可能性もあるため、注視が必要です。



インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移（単位：エーカー）

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、温暖な気候により生育は順調に進んでおり、現在、1 番刈の収穫が開始されています。多くの生産農家は3 番刈の生産を夏前まで行い、その後 DIP に参加する見通しです。

灌漑局の発表によると、2025 年4 月 15 日時点でのクレイングラスの作付面積は 22,919 エーカーとなっており、前年同期の 21,451 エーカーから増加しています。

バミューダ

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、収穫作業を開始しており、序盤は例年どおり種子用の生産が中心で、牧草の収穫は夏場から本格化する見通しです。

灌漑局の発表によると、2025 年 4 月 15 日時点での作付面積は 76,763 エーカーとなっており（前年同期の 65,462 エーカー）、生産農家にとってバミューダは、種子生産、ストロー生産、DIP 補助金といった複数の収入が見込めるため、作付面積は大幅に増加しています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州のライグラスストローの作付面積は他作物の相場が低調なこともあり、例年並～微増と予想されています。需要については、依然として韓国向けに堅調に推移しています。市場価格に変化は見られていませんが、更なる需要増加による高騰の懸念もあるため、市場には注視が必要です。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では、暖冬により降雨が少なかったものの、春前に適度な降雨があり土壌状況は良好となっています。25 年産の作付面積は昨年と同程度の見通しです。カナダ国内や日本向け需要に大きな変化はなく、出荷は順調に進んでいることから輸出業者の在庫も適正な状況となっています。

同州中部のクレモナ地区の作付面積については、昨年対比で5%程度微減する見通しです。

豪州産オーツハイ・ウィートストロー

豪州の各地域では、輸出業者と生産農家の契約が終盤を迎えており、播種作業に進んでいます。

西豪州では生産農家との契約が完了し、4 月の十分な降雨を受けて多くの圃場で播種を開始しており、5 月中には完了する見込みです。25 年産の作付面積は昨年比で 10%増加しており、生産量の増加が期待されています。天候が引き続き順調であれ

ば豊作の可能性もあります。

南豪州では契約進捗が約75%で、一部の生産農家が乾燥した気候の影響から契約を保留しており、現時点で十分な降雨は確認されていません。5月に平年並みの降雨があれば作付面積も例年並みになると見込まれますが、現時点では昨年並みの作付面積になると予想されています。

東豪州では契約が概ね完了しており、作付面積は昨年と同程度となる見通しです。4月下旬の2週間にわたり降雨に恵まれたことで土壌条件が整い、多くの生産農家が5月上旬から播種を開始しており、全体的に順調に進んでいます。

以上